

A decorative graphic on the left side of the slide, featuring a blue and white geometric design with various icons (gear, envelope, refresh, people, atom, document, keyboard) connected by lines, suggesting a network or system architecture.

ActiveImageTM 2022

PROTECTOR

2024年 2月 14日のアップデート
～ 新機能概要 ～

2024年 2月 14日
株式会社 アクティファイ

物理・仮想・クラウドといった多様な環境に対応したシステム・データ保護ソリューション

※「*」印は、2024年2月14日リリースでアップデートされた新機能です。

マルチクラウドに対応 (対応クラウドサービスの追加) *

Actiphy StorageServer オプションの追加 (専用のバックアップストレージの構築)

新しいトラッキングドライバーの追加 (増分バックアップのためのディスク変更ブロックの追跡)

QuickRecovery機能の追加 (復元作業の簡素化)

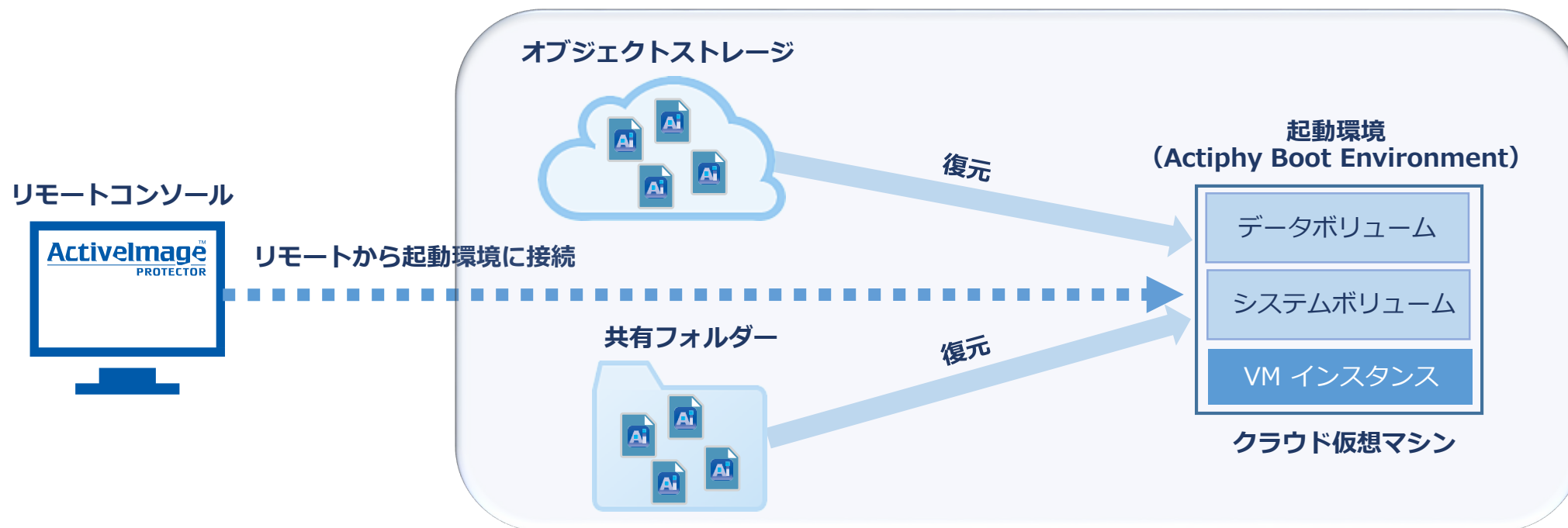
Recovery Media Maker機能の追加 (復元専用メディアの作成)

VMware vSphereのFCD (First Class Disk) に対応

クラウド上の仮想マシンをオンプレミス環境と同様のシンプルで統一的なバックアップ運用

- 従来のAmazon Web Services、Microsoft Azureに加え、Google Cloud Platform、Oracle Cloud Infrastructureに対応
- RescueBootから起動した起動環境にリモートから接続し、バックアップから仮想マシンのシステム復元が可能
- バックアップの保存先として、クラウド上のオブジェクトストレージやVLAN内のファイルサーバーを利用可能
- 1ライセンスで、クラウド上の仮想マシンを最大5台 までバックアップ運用に利用可能

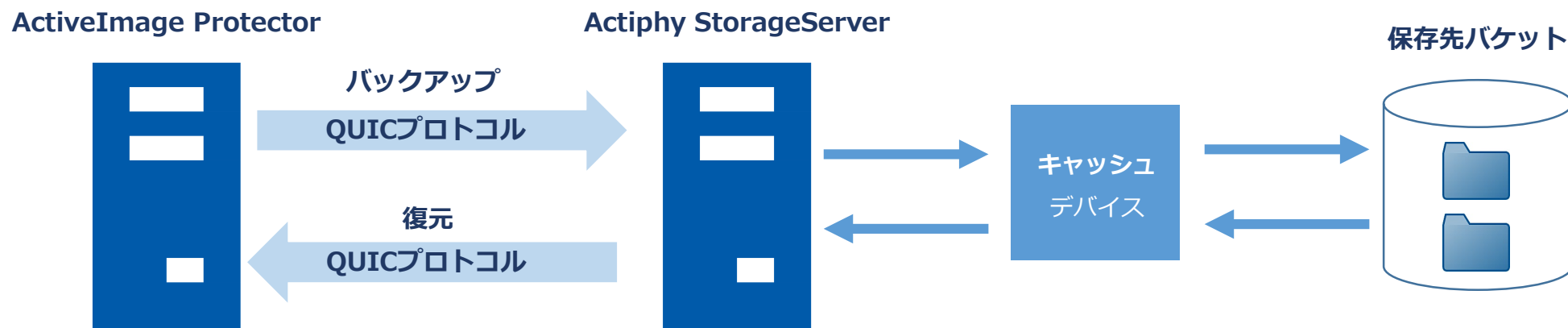
リモートからクラウドの仮想マシンを復元



ActiveImage Protector専用のセキュアなバックアップストレージを構築

- 保存先とするサーバーに、エージェントをインストールするだけでセキュアなバックアップストレージを構築
- 独立した保存先として、ランサムウェアなどのウィルスからバックアップファイルを安全に保護
- 新しい通信プロトコルQUICを使用して、安全で効率的なバックアップデータの転送を実現
- 保存先より高速なデバイスをキャッシュデバイスとして追加することで、安定した処理速度でバックアップが可能
- WindowsとDocker版を用意しており、様々な環境での運用が可能

ActiveImage Protector専用のセキュアなバックアップストレージを構築

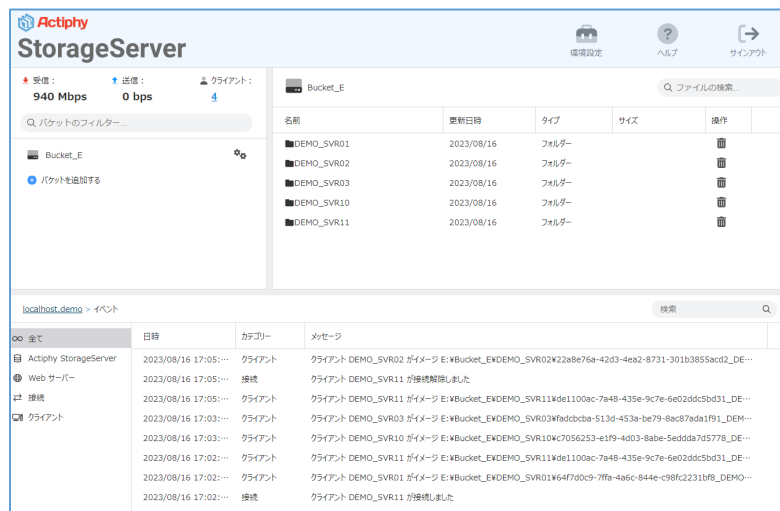


※QUICプロトコル：TCPの長所である正確さと、UDPの長所である速さを兼ね備えた通信プロトコルです。

Actiphy StorageServer専用のWebコンソールを提供

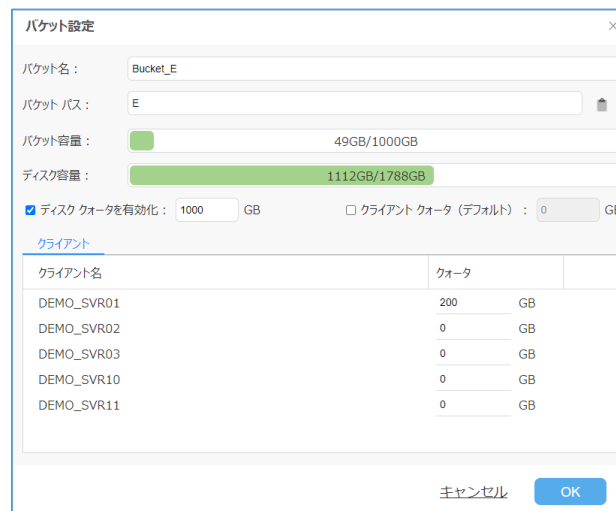
- Webブラウザがインストールされた任意のコンピュータから、Actiphy StorageServerの管理が可能
- 保存先バケットの作成、バケットのクォータ管理、キャッシュの設定、データ転送速度、接続クライアント数、イベント情報の確認など、一連の管理が可能
- Webブラウザーは、Google Chrome バージョン59以上/Microsoft Edge バージョン42以上/Apple Safari バージョン12以上で利用可能

Actiphy StorageServerのWebコンソール



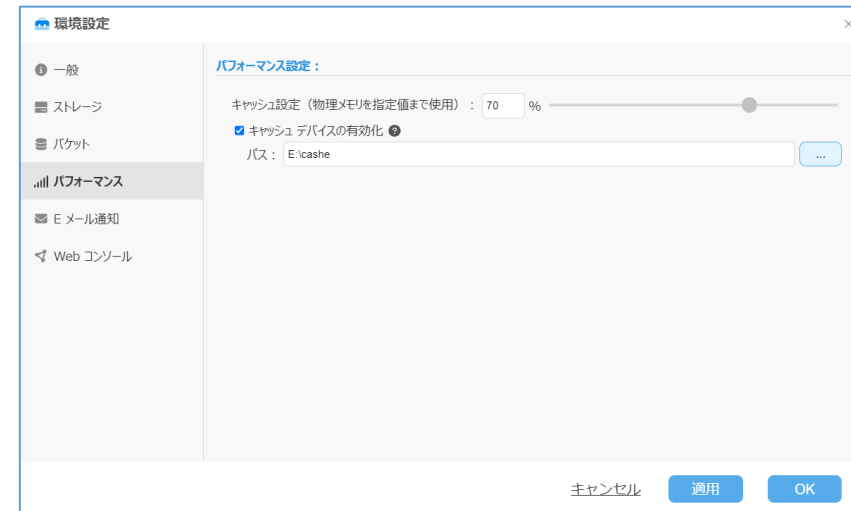
名前	更新日時	タイプ	サイズ	操作
DEMO_SVR01	2023/08/16	フォルダー		
DEMO_SVR02	2023/08/16	フォルダー		
DEMO_SVR03	2023/08/16	フォルダー		
DEMO_SVR10	2023/08/16	フォルダー		
DEMO_SVR11	2023/08/16	フォルダー		

保存先バケットのクォータ設定画面



クライアント名	クォータ
DEMO_SVR01	200 GB
DEMO_SVR02	0 GB
DEMO_SVR03	0 GB
DEMO_SVR10	0 GB
DEMO_SVR11	0 GB

キャッシュの設定画面

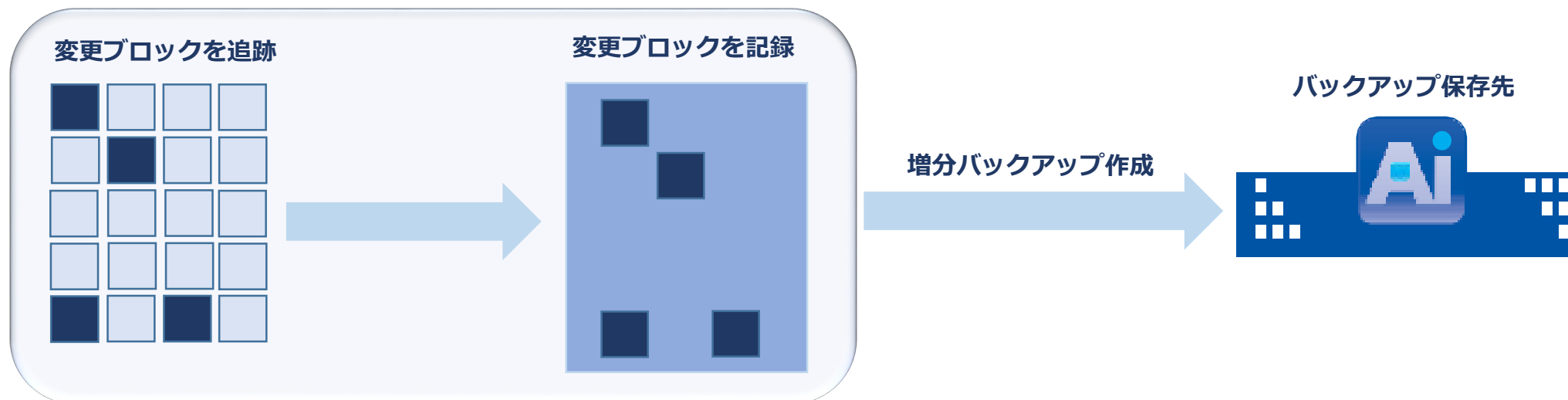


記録された変更ブロック情報から増分バックアップを作成

- ディスクI/Oを監視して、変更ブロックを追跡/記録する増分バックアップのためのドライバー
- 記録された変更ブロック情報から増分バックアップを作成、増分バックアップの処理時間を短縮
- 増分バックアップファイルの増加による、バックアップ処理速度の低下を抑えることが可能
- インストール時、更新時に再起動が不要、ActiveImage Protectorの導入時のエンジニアの負担を軽減
- 従来のドライバーを使用しない方式(CBC)も選択して使用可能

記録された変更情報から増分バックアップを作成

バックアップ元



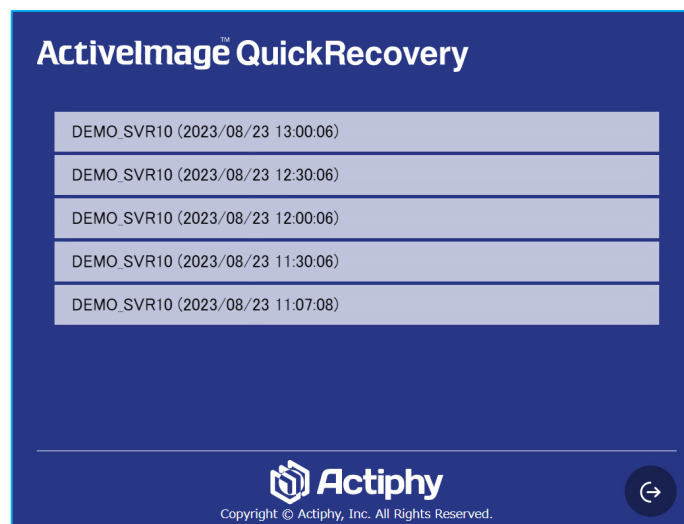
復元作業の簡素化

- 起動時に自動的に復元環境を起動、起動環境のメディアを作成していなくても復元が可能
- 復元環境の起動後、リカバリーポイントを指定するだけですぐに復元が可能
- ソフトウェア的な問題で復元したい場合は、復元対象のマシンだけで完結

QuickRecoveryの起動設定画面



リカバリーポイントの選択画面



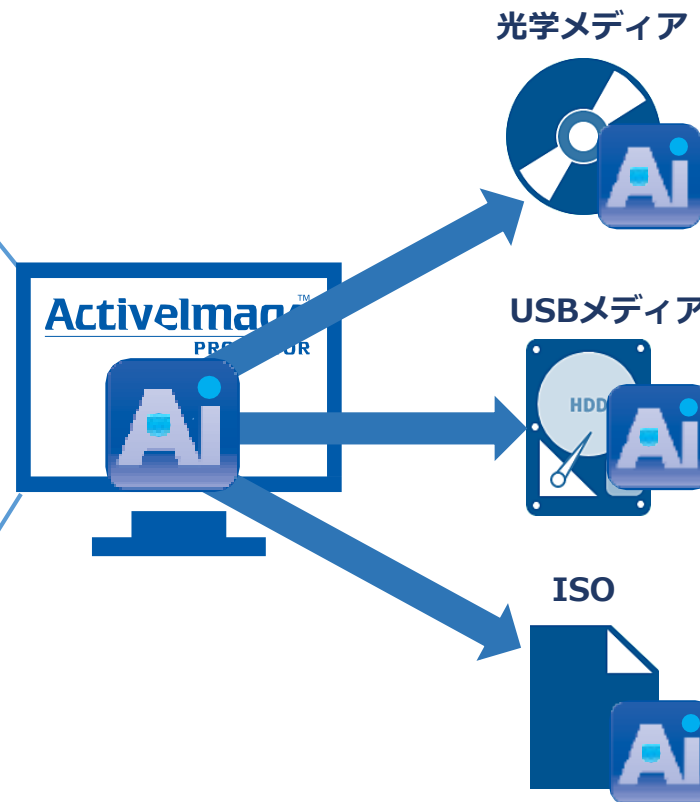
復元操作画面



復元専用メディアの作成

- 復元対象マシンのバックアップファイルを組み込んだ復元専用メディアを作成
- 復元専用メディアは、光学メディア(DVD/Blu-ray Disc)、USBメディア(USB HDD/SSD/Memory)、ISOに作成が可能
- 復元専用メディア単体で復元が可能、復元時にネットワークが使用できない場合やUSBメディアが持ちこめない現場でも復元作業が可能

Recovery Media Makerの設定画面



Recovery Mediaの復元操作画面





お問い合わせ先
株式会社 アクティブアイ
E-mail: sales@actiphy.com
Tel: 03-5256-0877



www.actiphy.com